

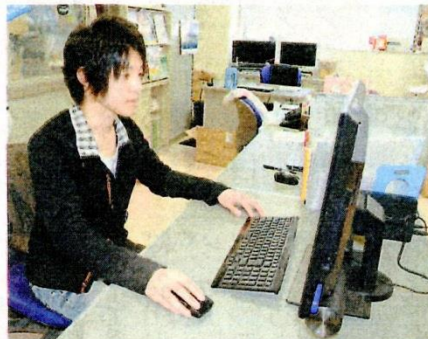


【中】

産総研が新年度から創設する「リサーチアシスタント(RA)制度」で、福島再生可能エネルギー研究所に採用される予定だ。

RA制度では、大学院生が経済的な不安を解消した上で、学位取得のための研究活動に専念できる。特に同研究所は、東日本大震災

人材育成



リサーチアシスタントとして採用される予定の金子さん。貴重な経験への期待が大きい

院生採用で研究専念

新しい分野 開拓に期待

の活用に向けた「ポテンシャルマップ」の作成を目指している。

現地調査が不可欠なマップの作成に「地域の大学との共同研究、その戦力となる学生は大きな武器」と内田チーム長。地中熱は住宅の冷暖房をはじめ、道路の融雪や農業用ハウスなど、幅広い用途での活用が見込まれる。金子さんを指導する柴崎直明同大教授も「地下水の熱の研究は世界的にも新しい分野。『地下』の能力をうまく使えるようにしてほしい」と期待。金子さんは真の研究者となるため、産総研での第一歩を間もなく踏み出す。

「産業技術総合研究所(産総研)の研究者と一緒に研究できることは、自分にとって大きな経験、プラスになると思う」。今春、福島大共生システム理工学類を卒業し、同大学院に進む金子翔平さん(22)は大きな期待を胸に秘める。

同大で地下水温を研究してきた金子さん。進学後は大学院での研究と並行し、

からの復興、再生に向けて期待される再生可能エネルギー分野の技術者、研究者を育成する。

金子さんが研究する地下水温は、同研究所が重点を

置く研究分野の一つ「地中熱」の導入に当たっての前水から温泉まで、バリエーションに富んでいる」と話す内田チーム長も、専門は地下水。地下水温を調査すること、県内での地中熱